

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102923		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	グループホーム フレンド学園前・登美の森		
所在地	奈良県奈良市西登美ヶ丘7丁目13-31		
自己評価作成日	令和3年4月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2970102923-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2970102923-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和3年5月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念にもある、「自分らしい安心できる生活をお手伝いします」を日々取り組んでおり、お一人お一人と、しっかり向き合いご家族様・スタッフと情報の共有を図り、その人らしい生活が出来る様に努力を行っています。新型コロナウイルス感染予防の為、外部や地域との交流が制限されている状況ですが、ホーム内で1日を楽しく・笑顔で過ごして頂ける様に日々のレクリエーションや行事等も工夫し取り組んでいます。ベトナムから技能実習生2名が勤務しており、毎日手作りの食事にもベトナム料理を取り入れたり、異文化交流を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、区画整理された広い住宅地の南端にあり、西側は小学校に接し、東側には神社や公園の森が広がっている。建物は、木造造り2階建てで1・2階部分に2ユニットのグループホームがある。「自分らしい安心できる生活をお手伝いします」入居者の尊厳を守ります「地域との連携に努めます」という法人の理念を掲げ、実践に努力している。食事は、利用者の希望を聴きながら職員がすべて手作りにしており、職員も同じテーブルを囲んで利用者と一緒に食事をしており、とても家庭的な雰囲気の事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に運営理念を掲げ、何時でも目に付くようにしている。この理念を元に意識の統一を図り、日々のケアを実践している。	「自分らしい安心できる生活をお手伝いします」「入居者の尊厳を守ります」「地域との連携に努めます」という法人の理念を、重要事項説明書に記載するとともに、玄関や事務所に掲示し職員で共有している。また、毎年法人目標がつけられ、それに沿って事業所独自の具体的な目標を定めてサービス向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、回覧板や地域の夏祭り・落ち葉拾い等に参加は行っていたが、新型コロナウイルス感染防止の為、殆ど中止になっている。地域との繋がりが途切れない様に自治会長とは定期的に情報交換は行っている。	自治会に加入し、自治会活動に参加してきたが、コロナ禍で行事が中止になり交流が少なくなっている。自治会主催の「地域ケア会議」に参加し、地域包括支援センターや民生委員と地域の福祉ニーズについて話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し、今、現状の地域での困り事や問題点を共有し、ホームでの取り組み事例等の発信を行ったりしていたが、コロナ禍の為、余り参加が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	敷地内にある、小規模多機能ホーム・デイサービスも合同で2ヶ月毎に、自治会長・地域包括支援センター・ご家族様・入居者・利用者様も参加していただき。スライドショーを用いて近況報告を行っているが、現在はコロナ禍の為、書面において報告を行っている。	運営推進会議は、自治会長、地域包括支援センター職員、家族及び利用者が参加して、年6回開催していたが、昨年度はコロナ禍で4回が書面開催となった。新型コロナが終息すれば、より多くの参加者を集めて開催されることを望みます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営をしていく中で困った事があれば、直ぐに相談している。また、運営推進会議の持参や介護保険の更新の手続き等で、担当者の方と顔を合わせて現状を報告している。	市の担当課へは、運営推進会議の議事録の提出や介護保険の更新等で訪問しており、情報交換を行っている。関西でも緊急事態宣言が出されている中で、利用者と職員が早くコロナワクチン接種ができるよう、市の担当課と連絡を取りながら進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を年2回行い、知識を深め、身体拘束ゼロの意識の確認を行っている。また入居契約時にも身体拘束を行わない事を説明させていただいている。	契約書及び運営規定に「身体拘束をしないケア」に取り組むことが記されており、教員研修を行って何が拘束にあたるか職員間で具体的に話し合っけてケアに活かしている。玄関及びフロア入り口の扉は、ロックされているが簡単に開けることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修でも虐待の防止の研修は必ず行っており、学んで頂いている。無意識の内に虐待をしていないかケアを見直しを行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について管理者が社内研修に参加し、その内容をケア会議を通じて、スタッフに説明・指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・利用契約書を文書で示し、十分に説明を行い、納得頂いた上で同意やサインを頂いている。またご家族様の不安や疑問点を伺い、その都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望は、日々のコミュニケーションの中から汲み取り、ケア会議で情報を共有し対応方法を統一出来る様に努めている。またご家族様へはコロナ禍で面会自粛の為、必要な事は電話連絡を行い、その時にご要望を伺っている。	家族の面会は、一時予約制にして利用者と距離を取って行っていたが、緊急事態宣言などを受けて、面会を中止している。家族へは主に電話で利用者の状況を伝えると共に、意見や要望を聴いている。家族と話したい利用者には、電話を取り次ぐようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にスタッフからの相談を受けている。事業所内で解決出来ない場合は上長へ相談を行い、最終判断を行っている。働きやすい環境作りに努めている。	日々の業務の中で、管理者や先輩職員が他の職員に仕事を教える(OJT)体制をつくっており、その都度職員の意見を聴いている。また、年3回個別に職員から意見を聴く機会を設けている。管理者の人柄から、職員が意見や提案しやすい職場の雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社グループ独自のOJTチェックリストを活用し定期的に評価を行い、面談も行っている。スキルに応じた手当や、やりがいや向上心を持って働ける様、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の力量を把握出来る様、会社グループ独自のOJTチェックリストを活用している。チェックリストの進捗状況の把握により個別に対応したスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回管理者やリーダーが参加する会議に出席し、他の施設の取り組みや、サービス向上への取り組み等情報・意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っている事・ご要望を、まずは傾聴・理解する様努めている。サービスの導入を前面には押し進めない様、不安な事を、しっかり把握出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様がおかれている状況や困っている事・不安な事を、しっかり聞き取り理解する様に努めている。サービス導入を押し進めない様、ご要望を把握出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に合ったサービス・支援を提供出来る様、相談内容を吟味し、同敷地内にある、他のサービスの管理者に相談を行ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個々に役割を持って生活をして頂いている。スタッフは時には家族の様な関係性を築き、人生の先輩として尊重しお互いに支え合っている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様を含め、地域で支えるという事を念頭に置き、ご本人様・ご家族様の絆を大切に取り組んでいる。また月に1度日々のご様子等をお手紙にし、写真と共に送付を行っている。ホームのご様子も笑顔便りと言う広報紙で送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限がある為、関係性が途切れない様に、お電話や・お手紙で近況報告を行ったり、お電話にてお話しして頂いている。	コロナ禍で家族の面会を制限しているので、電話で利用者と話ができるように支援している。馴染みの美容院へ出かけることができないので、訪問美容を利用している。また、年賀状のやり取りができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で自然と役割分担が出来ており、その人らしく生活されている。トラブル等が出そうな時は、さりげなくスタッフが間に入ったりし、お互いが楽しく関われる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同グループ内の施設に移られる方が多い為、定期的に情報の共有を行っており、新しい生活の場でも、楽しく生活して頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いから、ご本人様のペースで語って頂き、また表情や行動・発言等からも耳を傾け、その人らしい生活を送って頂ける様努めている。	利用開始時に利用者や家族から、事業所での暮らし方の希望を聴いている。また、日々の生活の中で、担当の職員が中心になって利用者寄り添い、会話を通して思いの把握に努めている。希望に添って利用者が好きだった歌手のDVDを観ることができるよう支援している。	アセスメント用紙の様式が、病気や身体面が中心になっている。利用者の生活歴や生活習慣、生き甲斐などの情報が記録できる様式を加え、より深く思いの把握ができるよう工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や背景を覗く事で、ホームでの生活環境に馴染んで頂ける様に工夫を行い、また、今までの生活習慣を継続出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録には日々のご様子を記録しており、また日々の生活の中での様子・会話の中から些細な変化に気づき、ケア会議等でも情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中から、些細な事でも、ご入居者様から意見やご要望を聞き取る様に努めている。またご家族様からも面会時やお電話等で積極的にご意見を伺う様に努めている。ケア会議にて、スタッフ全員で話し合い介護計画を作成している。	利用者や家族の思いを踏まえ、利用者の生活全般の解決すべき課題を抽出し、介護計画が立てられている。介護記録は、介護計画をモニタリングして記録できるよう工夫されている。モニタリング結果をケア会議で話し合い、半年ごとに介護計画を更新している。	介護計画が、利用者の健康やADLの課題の改善が中心になっている。利用者の好きなことや生きがいなど、プラス面からアプローチした「笑顔が増えるプラン」もあれば良いと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを用意し、日常生活の様子やバイタル値・食事・水分摂取量・排泄の状況・入浴等記録している。ケア会議等で変化や気づきを、スタッフで情報共有し検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応出来る様に、ご本人様やご家族様からの希望やご要望を聞き取り、可能な限りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で制限がある為、地域包括センターや自治会長と情報の交換・提供を行い、コミュニケーションを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回内科往診があり、整形外科・心療内科等、専門的な受診が必要な時は、ご家族様にご連絡を希望があれば受診を行っている。また歯科・皮膚科も訪問での対応も行っている。	当法人と同系列の医療機関の協力医が、月2回訪問診療を行っている。歯科医や皮膚科医の訪問も、行われている。他の医科へは、基本的に家族が付き添って受診している。毎週看護師が訪問して、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の体調の変化や気付き等は記録に残し、看護師から相談や助言を頂き、適切な受診や看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問していたが、コロナ禍の為、面会制限状態にあり、ご家族様や、病院の相談員とは電話や書面にて状況の把握に努めている。早期の退院・ホームでの日常生活の復帰を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合について、話し合いを持っている。終末期に入る場合は、往診医・看護師・スタッフがご家族様とカンファレンスを行い、今後の対応方法をご入居様・ご家族様の意向に添える様努めている。	重要事項説明書に、「利用者が疾病、老衰等により重度化した場合は、医療機関に入院すること」が示されており、事業所での看取りの取り組みの事例はない。利用開始時に、利用者や家族に事業所の方針を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成を行い、全スタッフに発信・周知を行っている。また研修も実施し定期的確認・指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を策定し、年2回隣接している、小規模多機能ホーム・デイサービスも合同で避難・消火訓練を行っている。非常災害時に備え、飲料水や食料の備蓄も準備している。	年2回避難・消火訓練を実施しており、夜間想定訓練も実施している。備蓄は、3日分の食料や飲料水、カセットコンロなどを用意している。訓練終了後は、備蓄食料品をみんなで食べ、新しい品物に入れ替えて災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合ったペースでの声掛けや対応を行っている。また、ケア会議等で情報を共有しスタッフの意識の統一を図る様心掛けている。	利用者の名前は、苗字にさん付で呼んでいるが、利用者が呼ばれて心地よい呼び名を使うこともある。朝食は、利用者一人ひとりの起床するリズムに合わせて提供している。お風呂やトイレの介助は、同性とは限らず利用者の思いに沿って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活を楽しく感じて頂ける様に、毎日の洋服選びや、食事の献立の希望、アクティビティーの選択等、自己決定が出来る様・希望に添える様、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様のその日の体調・気分を優先し、個々に合ったペースでの対応を心掛けている。ホーム側の都合や共同生活での制限を感じられる事のない様、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が希望される髪型や洋服を選んで頂いている。いつも同じ服装にならない様に、さりげなく声掛けし支援を行っている。ヘアカットも訪問だけではなく、今までの馴染みのお店に通える様にご家族様と一緒に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様の好みや希望を反映出来る様に心掛けている。季節を感じて頂ける献立や行事食、また食べたいと言われる食事を注文したりもしている。盛り付けや、準備・後片付けも出来る入居者様と一緒にやっている。	食事は、冷蔵庫等にある多彩な食材を使って、職員が交代ですべて手作りしている。利用者もできる範囲で、食事の準備や後片付けを行っている。ベトナムから来た技能実習生がベトナム料理を振舞ったり、職員もテーブルを囲んで同じ食事を摂るなど、とても家庭的な雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病歴に応じて、塩分や糖분을控えめにしたり、食事量も考えて対応している。食事・水分量は毎回記録し、水分量が不足している方には、摂取しやすい(ゼリー等)形態で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、歯磨きの声掛けや誘導・介助を行っている。うがいが出来ない方には、うがいをしない歯磨き粉の使用等、個々の入居者様に応じた口腔内の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が行える様に、立位の取れない方は、スタッフ2名でトイレ介助を行っている。個別の排泄チェック表を活用し個々に合った支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、タイミング良い声掛けやトイレ誘導を行っている。なるべくトイレに座って自然な排泄ができるよう支援しており、入居時におむつを付けていた方も、徐々にリハビリパンツや布パンツに変わる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝に牛乳・ヨーグルト・センナ茶を取り入れ、便秘にならない様工夫を行っている。毎日の体操では腹圧をかけて頂く運動や腸の活動を促進出来る様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や、入居者様の希望や気分に合わせて、特に曜日は決めず週に2～3回入浴していただいている。入浴剤を使用したり、個々の好みにあった支援を行っている。	基本的に週2・3回入浴することができるよう支援している。利用者のお好みのお風呂剤を入れて、香りや色を楽しんでいる。また、菖蒲や柚子を湯船に浮かべて、季節を感じるができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活に沿った活動を通じ、個々に合った日中を無理なく活動して頂く事により、生活のリズムを作り、また適度な疲労で心地良い眠りにつける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の目的や副作用・容量については、医師の指示等を確認し支援を行っている。症状の変化や確認に努め、医師と相談しながら、服薬の変更・調整等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、お掃除・食事の準備や、お庭の手入れ等、その方に応じたお手伝いをして頂いている。お手伝いも楽しみながら、気分転換出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、現在は外出を控えている。ホームのお庭でお茶をしたり、外気浴をし気分転換を図っています。	日常的に近くの公園に散歩に出かけ、地域の方と交流していたが、コロナ禍で外出を控えている。天気の良い日は、なるべく庭やベランダに出て、森を見ながら新鮮な空気を吸って外気浴している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の所持を必要とされる方はおられないが、外出や外食をされた際は、スタッフと一緒に支払いを行ってもらう事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友人様からお手紙が届いた際には、ご本人様に直接手渡したり、見えにくいとの訴えがあれば、代読させて頂いている。お電話の際に、聞取りにくい事があれば、スタッフが間に入り支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、テレビやソファ・本棚等を置いており、過ごしやすい場所を自由に選択して頂いている。リビング内の壁や本棚の上等の目に付きやすい所には、季節のお花を飾ったり、行事等の写真や飾り付けを行っている。	食堂及びリビングはとても広くゆったりとしており、東側はガラス戸を通して美しい森の緑を楽しむことができる。そこから1階はすぐ庭に出ることができ、2階はベランダに出ることができる。食堂には利用者の体格に合わせて高さの異なるテーブルが設置されており、リビングにはソファやテレビが置かれゆっくり寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置や椅子の配置を工夫し、またリビングにはソファを設置し、思い思いに過ごして頂ける様な居場所作りの工夫を行っている。また新しくご入居された方がおられる時は、ご様子等を観察し臨機応変に対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の、家具や置き物等はご本人様の今迄の生活環境や入居される際にご家族様との面談の際に決めている。思い出の写真やお誕生日やイベントの際のカードや賞状等の飾り付けを行い、居心地よく過ごして頂ける様に工夫を行っている。	居室入り口には、手書きの表札と利用者の写真が貼られている。居室内には、介護用ベッドが設置されており、利用者の馴染みのタンスや洋服掛け、机や椅子などが持ち込まれ、お気に入りの写真などを飾って安心して暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーになっており、自由に行動して頂き生活されている。家具やソファ等の配置を考慮し、さりげなく手すりになる様、安心・安全に過ごして頂ける様に努めている。トイレや居室には、表札を掲げ迷われない様に工夫を行っている。		